

## □特 集

## 平成 29 年人口動態統計（概数）の概要

## 合計特殊出生率が 0.03 ポイント低下

—全国は 0.01 ポイント低下—

## 悪性新生物（がん）・脳血管疾患による死亡率が低下

—悪性新生物による死亡が、総死亡数に占める割合の 28.9%を占める—

## 自然減少数は 7 千人を超える

—自然増減率は 0.6 ポイント低下、依然として自然減少が続く—

府健康福祉総務課

## はじめに

人口動態統計は、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の 5 種類の「人口動態事象」について、その実態を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的として実施されています。

出生、死亡、婚姻及び離婚については、「戸籍法」による届出書から、死産については、「死産の届出に関する規程」による届書等から、その届出を受けた市区町村長が調査票を作成します。

これらの調査票は、保健所長、都道府県を經由し、厚生労働省に提出されます。

厚生労働省では、これらの調査票の毎月分及び年間分を集計して、人口動態統計月報（概数）、人口動態統計年報として公表しています。

この概要は、平成 29 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの間における京都府分について取りまとめたもので、数値は概数です。

## 1 出 生

—出生数は前年より減少、

出生率は 0.3 ポイント低下—

平成 29 年の出生数は、1 万 8521 人で前年より 806 人減少しました。

出生率（人口千対）は 7.3 で、前年に比べ 0.3 ポイント低下しました。

出生数の推移をみると、第 1 次ベビーブーム期（昭和 22 年～ 24 年）の団塊の世代が誕生した時期は 5 万人台で推移していましたが、その後急激に減少し、昭和 32 年には 2 万 6688 人まで減少しました。その後、昭和 41 年（ひのえうまの年）を除いて増加に転じ、昭和 48 年には第 2 次ベビーブーム期のピークを迎えましたが、以後減少傾向が続いています。（表 1、図 1）

表 1 人口動態総覧、対前年比較

	実 数						率		率（全国）	
	平成 29 年	平成 28 年	増 減	増減割合 (%)	平均発生間隔	平成 29 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 28 年	
出 生	18,521	19,327	△ 806	△ 4.2	28 分 22 秒	7.3	7.6	7.6	7.8	
死 亡	26,429	25,850	579	2.2	19 分 53 秒	10.4	10.1	10.8	10.5	
（乳児死亡）	27	41	△ 14	△ 34.1	324 時間 26 分	1.5	2.1	1.9	2.0	
（新生児死亡）	11	21	△ 10	△ 47.6	796 時間 21 分	0.6	1.1	0.9	0.9	
自 然 増 減	△ 7,908	△ 6,523	△ 1,385	21.2	…	△ 3.1	△ 2.5	△ 3.2	△ 2.6	
死 産	355	401	△ 46	△ 11.5	24 時間 40 分	18.8	20.3	21.1	21.0	
婚 姻	11,875	12,143	△ 268	△ 2.2	44 分 15 秒	4.7	4.7	4.9	5.0	
離 婚	4,105	4,222	△ 117	△ 2.8	2 時間 8 分	1.61	1.65	1.70	1.73	

注 1 平成 28 年は確定数

2 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は日本人人口千対、乳児・新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対

3 算出に用いた京都府の人口は、平成 29 年 = 2,551,000 人（平成 29 年 10 月 1 日現在・都道府県・男女別人口（日本人人口）

4 自然増減：出生数から死亡数を減じたもの

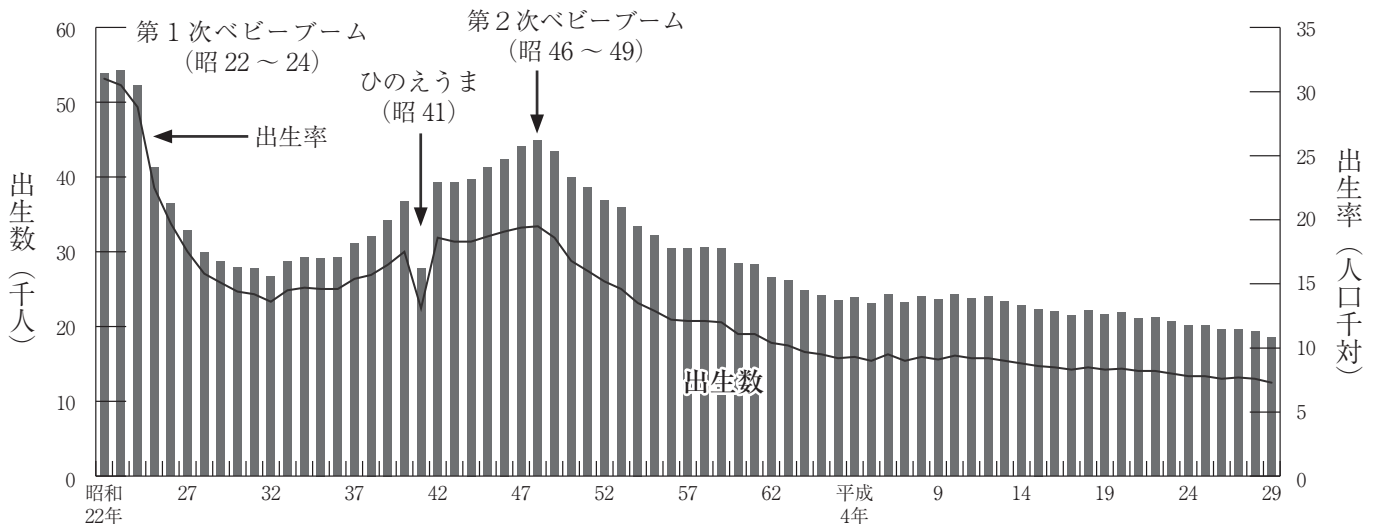
5 乳児死亡：生後 1 年未満の死亡数

6 新生児死亡：乳児死亡のうち、生後 4 週未満の死亡数

7 死産：妊娠満 12 週以後の死産の出産

8 平均発生間隔：1 件当たりの事象発生が、どれだけの時間間隔をもって発生したのかを表したもの

図1 出生数・出生率の年次推移



合計特殊出生率は 1.31

—前年より 0.03 ポイント低下

全国は 0.01 ポイント低下—

平成 29 年の出生率を母の年齢階級別にみると、最も出生率が高かったのは、30～34 歳の層で、出生率は 99.8（出生数 6883 人）となりました。

30～34 歳の出生率は、昭和 53 年以降上昇傾向にあり、平成 12 年には、25～29 歳の層を上回り、その後も出生数・率とも第 1 位となっています。

第 2 位は、25～29 歳の層で、出生率は 71.1（出生数 4479 人）となりました。25～29 歳は昭和 47 年（出生率 213.8）をピークに低下傾向が続いています。

第 3 位は 35～39 歳の層で、出生率 59.1（出生数 4494 人）となり、上昇傾向が続いています。

第 4 位は 20～24 歳の層で出生率 17.4（出生数 1322 人）となり、出生率については、2 年連続で 20 を下回りました。（図 2）

図2 母の年齢階級別出生率の年次推移（人口千対）

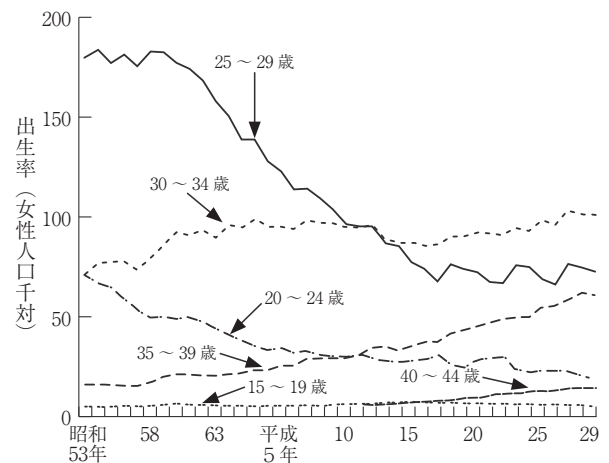


表2 合計特殊出生率の推移

年次	京都府	全国
昭和 40 年※	2.02	2.14
45 ※	2.02	2.13
50 ※	1.81	1.91
55 ※	1.67	1.75
60 ※	1.68	1.76
平成 2 年※	1.48	1.54
7 ※	1.33	1.42
12 ※	1.28	1.36
17 ※	1.18	1.26
18	1.19	1.32
19	1.18	1.34
20	1.22	1.37
21	1.20	1.37
22 ※	1.28	1.39
23	1.25	1.39
24	1.23	1.41
25	1.26	1.43
26	1.24	1.42
27 ※	1.35	1.45
28	1.34	1.44
29	1.31	1.43

※は国勢調査年

合計特殊出生率とは、その年の 15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計した値で、その年の女性の年齢別出生傾向が将来も変わらないと仮定した場合、1 人の女性が一生の間に生む平均の子供の数に相当します。

## 2 死 亡

### —死亡数は増加、死亡率は0.3ポイント上昇—

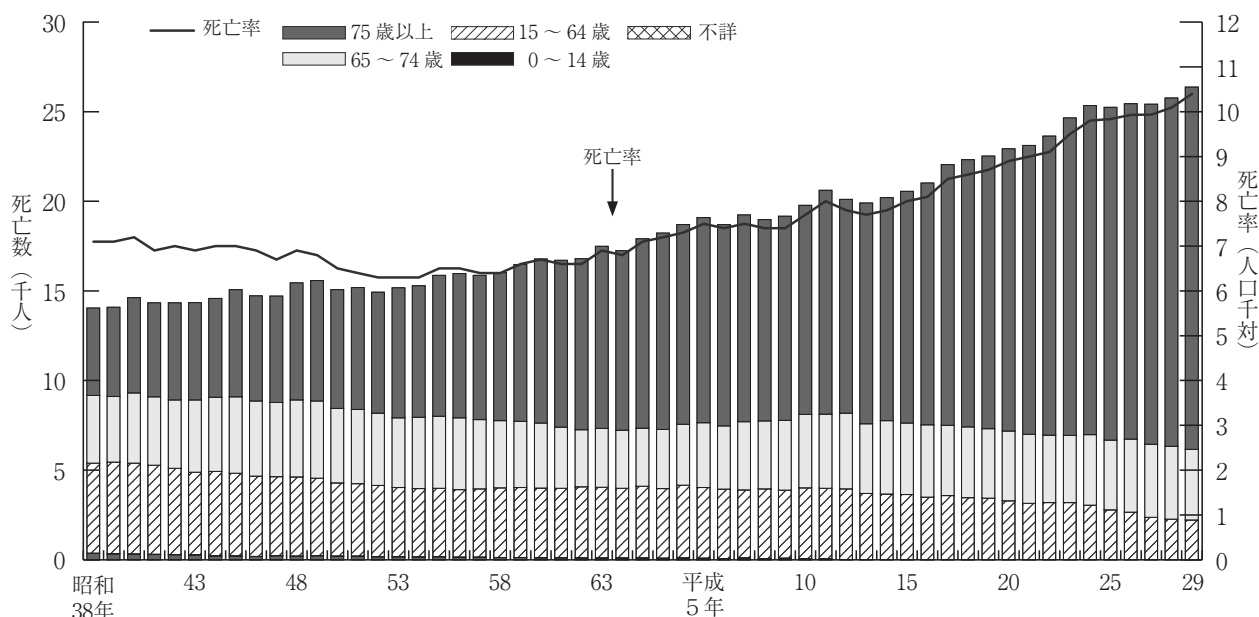
平成29年の死亡数は2万6429人で、前年より599人増加し、死亡率（人口千対）は10.4と10を上回りました。（表1、図3）

死亡数の推移をみると、昭和44年以降1万5千人～1万9千人台で推移していましたが、平成11年に2万人台となって以後、ゆるやかな増加傾向が続いています。

年齢別死亡数では、0歳～74歳の世代は前年を下回りましたが、75歳以上の世代は増加しました。

死亡率は昭和35年（死亡率7.7）以降低下傾向にあり、52～54年に3年連続6.3と戦後最低を記録した後、ゆるやかな上昇に転じ、平成13年（同7.7）以降は上昇傾向が顕著になり、平成29年は10.4で過去最高となりました。（図3）

図3 死亡数・死亡率の年次推移



## 3 死 因

### —3大生活習慣病のうち、

#### 心疾患による死亡率が上昇—

死因順位の第1位は悪性新生物（がん）で、平成29年の死亡数は7642人で、前年より34人減少、死亡率（人口10万対）は299.6で、前年より0.4ポイント低下しました。悪性新生物による死亡が総死亡数に占める割合は28.9%でした。

第2位は心疾患の4566人で、前年より184人増加、死亡率は179.0で、前年より7.7ポイント上昇しました。第3位は脳血管疾患で、平成29年の死亡数は前年より29人減少の2011人、死亡率は0.9ポイント低下し、78.8となりました。

第4位は老衰の1878人で、死亡率は73.6となり、前年より4.4ポイント上昇しました。

第5位は肺炎で、死亡数は1657人、第6位は不慮の事故で、死亡数は610人でした。自殺は、死亡数が360人となり、前年より4人減少しまし

た。自殺死亡率は14.1でした。

また、悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患の3大生活習慣病による死亡が総死亡数に占める割合は、53.8%となりました。（表3、図4）

### —悪性新生物(がん)部位別トップは「肺」—

悪性新生物（がん）の主な部位別死亡率（人口10万対）をみると、第1位は前年に引き続き「肺」で死亡率は60.4、前年より2.1ポイント低下しました。

第2位は平成25年から引き続き「大腸」で死亡率は41.8、前年より3.7ポイント上昇しました。

第3位は「胃」で死亡率は35.5で前年より1.4ポイント低下しました。第4位は「肝」で、死亡率は22.0、前年より2.4ポイント低下しました。

また、肺、大腸、胃の上位3疾患で悪性新生物死因総数の46.0%を占めています。（図5）

表3 死因順位

死因順位	平成29年	死亡数(人)	死亡率	死亡総数に占める割合(%)	平成28年	死亡数(人)	死亡率	全国(29年)	死亡数(人)	死亡率
第1位	悪性新生物	7,642	299.6	28.9	悪性新生物	7,676	300.0	悪性新生物	373,178	299.4
2	心疾患	4,566	179.0	17.3	心疾患	4,382	171.3	心疾患	204,203	163.8
3	脳血管疾患	2,011	78.8	7.6	肺炎	2,129	83.2	脳血管疾患	109,844	88.1
4	老衰	1,878	73.6	7.1	脳血管疾患	2,040	79.7	老衰	101,787	81.7
5	肺炎	1,657	65.0	6.3	老衰	1,772	69.2	肺炎	96,807	77.7
6	不慮の事故	610	23.9	2.3	不慮の事故	535	20.9	不慮の事故	40,395	32.4
7	血管性及び詳細不明の認知症	453	17.8	1.7	腎不全	486	19.0	腎不全	25,135	20.2
8	腎不全	442	17.3	1.7	自殺	364	14.2	自殺	20,431	16.4
9	アルツハイマー病	420	16.5	1.6	慢性閉塞性肺疾患	334	13.1	血管性及び詳細不明の認知症	19,559	15.7
10	慢性閉塞性肺疾患	413	16.2	1.6	大動脈瘤及び解離	332	13.0	大動脈瘤及び解離	19,103	15.3

注) 平成28年は確定数  
死亡率は人口10万対である。

図4 主要死因別死亡率の年次推移(人口10万対)

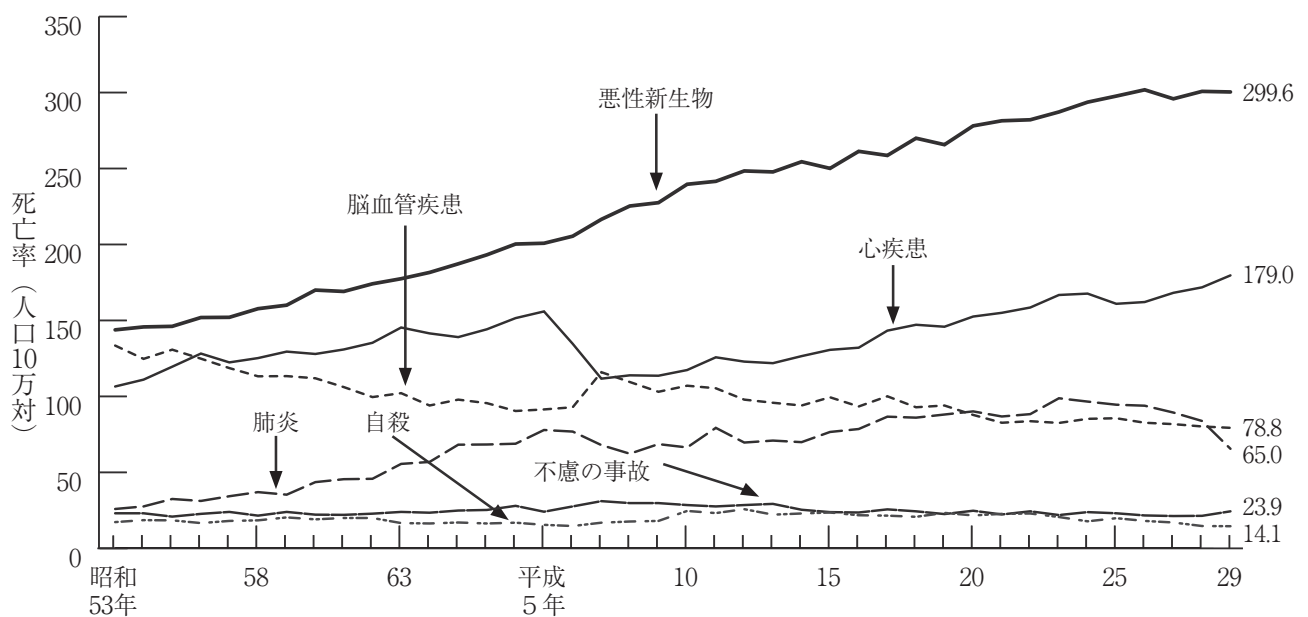
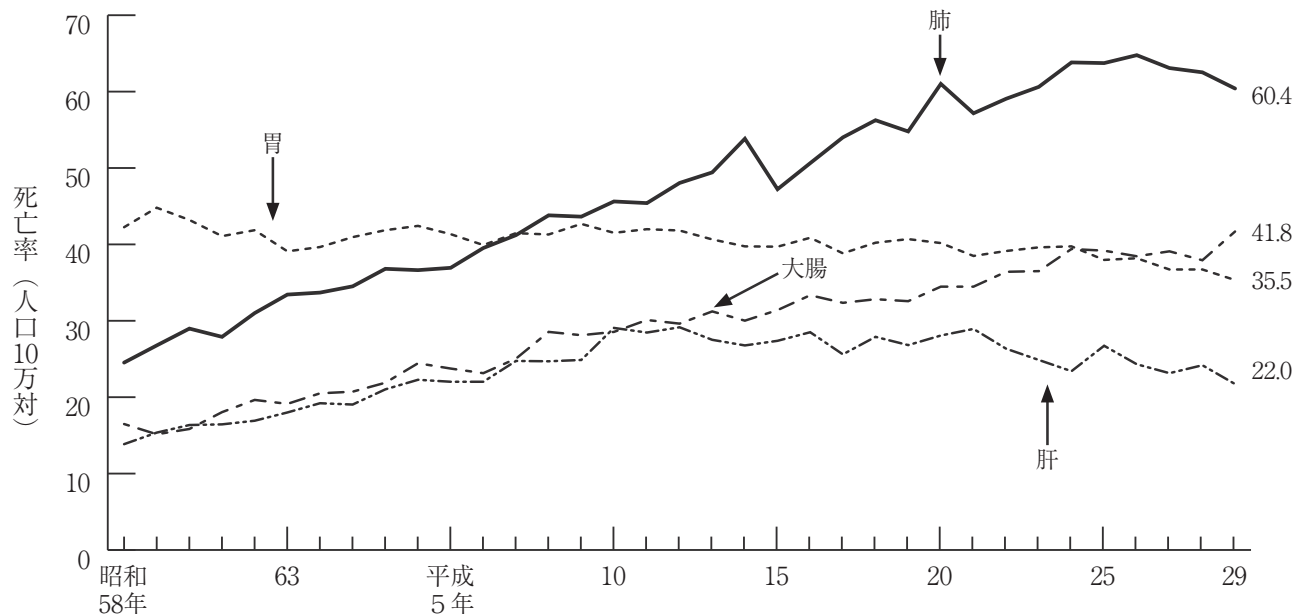


図5 悪性新生物(がん)の主な部位別死亡率の年次推移(人口10万対)



男女別死亡率をみると、男の死亡率（人口10万対）は、「肺」が平成3年以降第1位で、29年は88.6となり、前年より2.2ポイント低下しました。

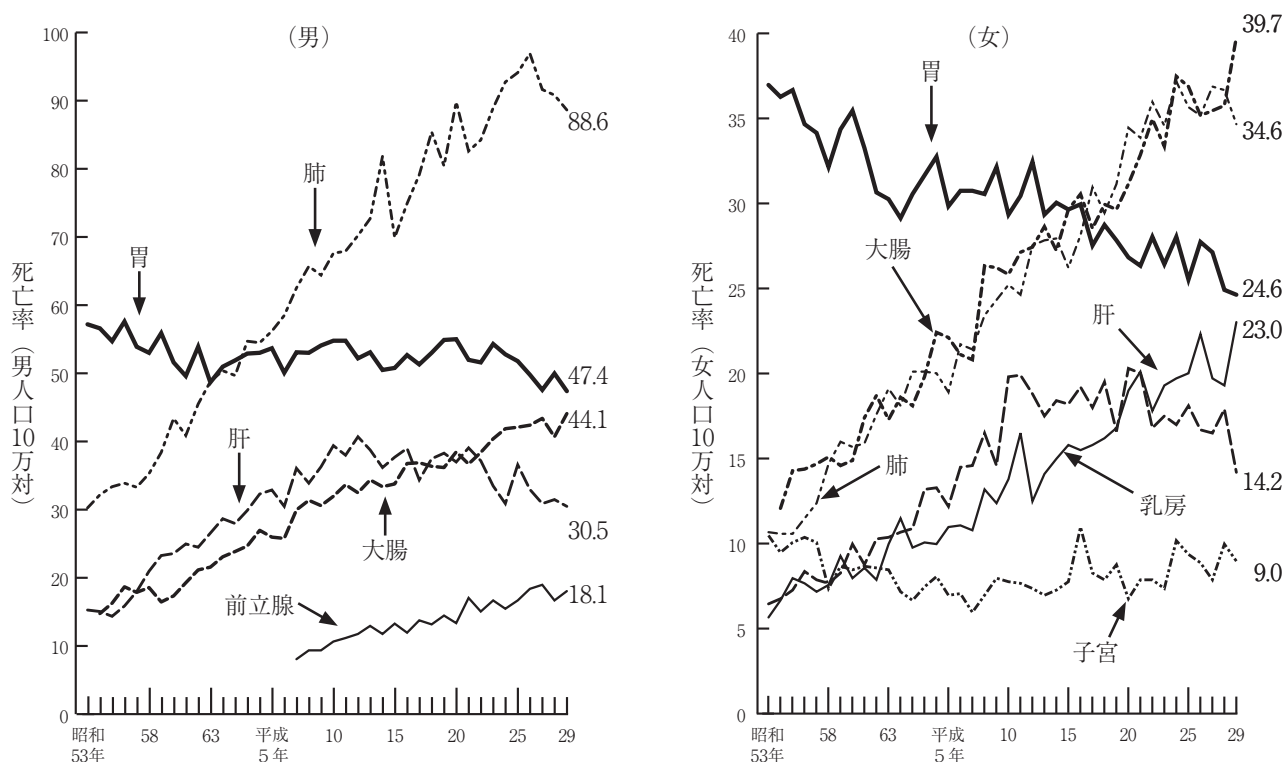
第2位は「胃」で47.4と、前年より2.6ポイント低下しました。

第3位は「大腸」で44.1、第4位は「肝」で30.5となりました。

女の死亡率（人口10万対）は、「大腸」が39.7で第1位で、前年より4.0ポイント上昇しました。第2位は「肺」で34.6、第3位は「胃」で24.6となりました。

「乳房」は23.0で前年より3.7ポイント上昇し、上昇傾向にあります。「子宮」は9.0で前年より1.0ポイント低下しました。（図6）

図6 悪性新生物（がん）の性別・主な部位別死亡率の年次推移（人口10万対）



- 注1 文中、図5及び図6において肺とは、気管、気管支及び肺の悪性新生物である。  
 2 文中、図5及び図6において大腸とは、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物である。  
 3 文中、図5及び図6において肝とは、肝及び肝内胆管の悪性新生物である。  
 4 図6において大腸の昭和53年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。  
 5 図6において前立腺の平成7年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。

#### 4 乳児死亡・新生児死亡

一乳児死亡率は0.6ポイント低下、

新生児死亡率は0.5ポイント低下

平成29年の乳児死亡数は27人で、前年より14人減少し、乳児死亡率（出生千対）は1.5で、前年より0.6ポイント低下しました。

新生児死亡数は11人で、前年より10人減少し、新生児死亡率（出生千対）は0.6で、前年より0.5ポイント低下しました。（表1）

#### 5 自然増減

一自然減少数は7千人を超える

平成29年の出生数から死亡数を減じた自然増減数は、マイナス7908人となり、依然として自然減少が続いています。自然増減率（人口千対）はマイナス3.1で、前年より0.6ポイント低下しました。（表1）

## 6 死 産

### 一死産率は1.5ポイント低下ー

平成29年の死産数は355胎で前年より46胎減少、死産率（出産千対）は18.8と、前年より1.5ポイント低下しました。（表1）

## 7 婚 姻

### 一平均初婚年齢 夫は31.4歳、妻は29.8歳

#### 男女とも晩婚化進むー

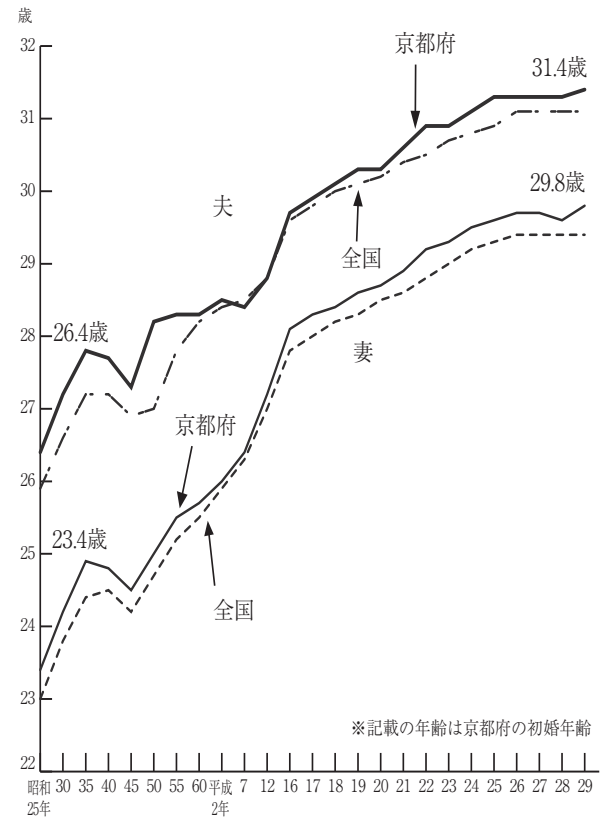
平成29年の婚姻件数は1万1875組で前年より268組減少し、婚姻率（人口千対）は4.7で、前年と同じです。（表1）

また、平均初婚年齢は、夫31.4歳、妻29.8歳で、夫は0.1歳、妻は0.2歳上昇しています。

平均初婚年齢の推移をみると、昭和25年以降は上昇傾向が続き、昭和25年（夫＝26.4歳、妻＝23.4歳）と比べると、夫は5.0歳、妻は6.4歳上昇しており、男女とも晩婚化が進んでいます。

（図7）

図7 平均初婚年齢の推移



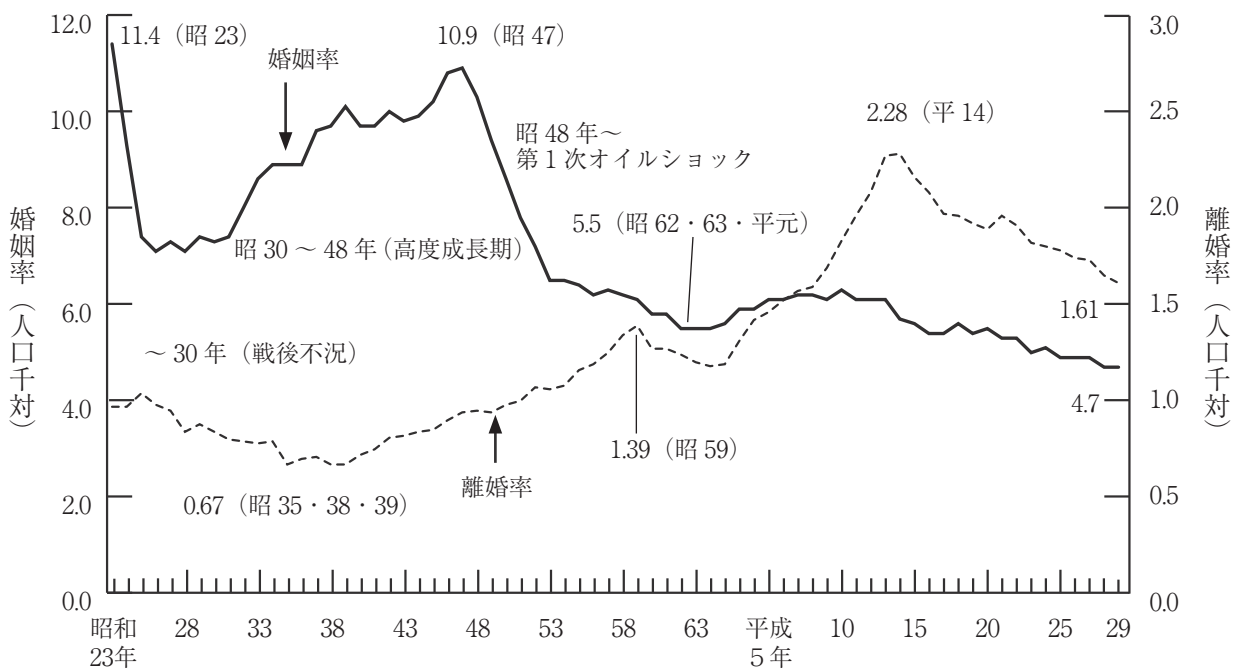
## 8 離 婚

### 一離婚件数、離婚率ともに減少ー

平成29年の離婚件数は4105組で、前年より117組減少し、離婚率（人口千対）は1.61となり、前年より0.04ポイント低下しました。（表1）

離婚率の推移をみると、昭和35年、38年、39年に戦後最低（離婚率0.67）となった後上昇し、59年以降低下していましたが、平成2年から再び上昇に転じ、平成14年には過去最高の2.28を記録し、その後は低下傾向が続いています。（図8）

図8 婚姻率・離婚率の年次推移（人口千対）



第1表 人口動態（概数）保健所、市町村別（平成29年）

区 分	出生数			死亡数			乳 児 死亡数	新生児 死亡数	死 産 数	婚 件	姻 数	離 件	婚 数	自 然 増加数
	総数	男	女	総数	男	女								
総 数	18,521	9,476	9,045	26,429	13,287	13,142	27	11	355	11,875	4,105	△7,908		
京 都 市	10,374	5,327	5,047	14,339	7,192	7,147	13	5	198	7,278	2,355	△3,965		
その他の市町村	8,147	4,149	3,998	12,090	6,095	5,995	14	6	157	4,597	1,750	△3,943		
乙 訓 保 健 所	1,361	673	688	1,333	723	610	2	1	26	717	202	28		
向 日 市	528	266	262	470	242	228	1	1	5	235	80	58		
長 岡 京 市	665	326	339	716	395	321	1	-	20	392	110	△51		
大 山 崎 町	168	81	87	147	86	61	-	-	1	90	12	21		
山 城 北 保 健 所	2,919	1,521	1,398	3,963	2,087	1,876	7	1	52	1,725	718	△1,044		
宇 治 市	1,231	660	571	1,669	872	797	2	-	18	774	329	△438		
城 陽 市	499	264	235	755	409	346	2	-	10	282	111	△256		
八 幡 市	457	225	232	616	315	301	-	-	8	279	128	△159		
京 田 辺 市	540	274	266	575	298	277	3	1	10	241	95	△35		
久 御 山 町	106	55	51	142	75	67	-	-	5	84	29	△36		
井 手 町	43	24	19	98	54	44	-	-	-	32	10	△55		
宇 治 田 原 町	43	19	24	108	64	44	-	-	1	33	16	△65		
山 城 南 保 健 所	905	443	462	936	454	482	-	-	21	427	159	△31		
木 津 川 市	616	301	315	524	252	272	-	-	14	288	105	92		
笠 置 町	1	1	-	31	20	11	-	-	-	3	1	△30		
和 束 町	13	7	6	69	36	33	-	-	1	12	3	△56		
精 華 町	268	132	136	267	129	138	-	-	6	117	47	1		
南 山 城 村	7	2	5	45	17	28	-	-	-	7	3	△38		
南 丹 保 健 所	832	441	391	1,646	817	829	-	-	16	491	195	△814		
亀 岡 市	598	319	279	885	453	432	-	-	10	330	146	△287		
南 丹 市	179	95	84	493	237	256	-	-	4	118	36	△314		
京 丹 波 町	55	27	28	268	127	141	-	-	2	43	13	△213		
中 丹 西 保 健 所	711	352	359	993	490	503	3	3	17	366	157	△282		
福 知 山 市	711	352	359	993	490	503	3	3	17	366	157	△282		
中 丹 東 保 健 所	856	432	424	1,663	793	870	1	-	12	532	195	△807		
舞 鶴 市	640	311	329	1,106	548	558	1	-	11	408	148	△466		
綾 部 市	216	121	95	557	245	312	-	-	1	124	47	△341		
丹 後 保 健 所	563	287	276	1,556	731	825	1	1	13	339	124	△993		
宮 津 市	83	44	39	362	158	204	-	-	2	64	21	△279		
京 丹 後 市	342	176	166	845	415	430	1	1	8	191	72	△503		
伊 根 町	15	6	9	58	25	33	-	-	-	7	2	△43		
与 謝 野 町	123	61	62	291	133	158	-	-	3	77	29	△168		

第2表 人口動態統計 実数及び率の年次推移

区 分	出 生		死 亡		乳児死亡		死 産		婚 姻		離 婚		自然増加	
	実 数	率 (人口千対)	実 数	率 (人口千対)	実 数	率 (出生千対)	実 数	率 (出産千対)	実 数	率 (人口千対)	実 数	率 (人口千対)	実 数	率 (人口千対)
昭和22年	53,828	31.0	25,686	14.8	3,705	68.8	2,429	43.2	18,294	10.5	1,750	1.01	28,142	16.2
23	54,287	30.5	19,892	11.2	2,866	52.8	2,920	51.0	20,285	11.4	1,727	0.97	34,395	19.3
24	52,248	28.8	19,638	10.8	2,058	39.4	4,313	76.2	16,916	9.3	1,765	0.97	32,610	18.0
25	41,236	22.5	17,850	9.7	2,079	50.4	4,587	100.1	13,643	7.4	1,903	1.04	23,386	12.8
26	36,493	19.7	16,341	8.8	1,804	49.4	4,452	108.7	13,168	7.1	1,813	0.98	20,152	10.9
27	32,802	17.5	15,417	8.2	1,401	42.7	3,943	107.3	13,705	7.3	1,788	0.95	17,385	9.3
28	29,907	15.8	15,562	8.2	1,237	41.4	3,672	109.4	13,388	7.1	1,591	0.84	14,345	7.6
29	28,717	15.1	14,139	7.4	1,089	37.9	3,516	109.1	14,109	7.4	1,673	0.88	14,578	7.7
30	27,943	14.4	13,797	7.1	909	32.5	3,319	106.2	14,079	7.3	1,630	0.84	14,146	7.3
31	27,724	14.2	15,081	7.7	963	34.7	3,285	105.9	14,488	7.4	1,560	0.80	12,643	6.5
32	26,688	13.6	15,549	7.9	843	31.6	3,234	108.1	15,685	8.0	1,556	0.79	11,139	5.7
33	28,665	14.5	14,356	7.3	811	28.3	3,455	107.6	17,041	8.6	1,535	0.78	14,309	7.2
34	29,282	14.7	14,610	7.3	818	27.9	3,479	106.2	17,651	8.9	1,577	0.79	14,672	7.4
35	29,194	14.6	15,265	7.7	747	25.6	3,356	103.1	17,709	8.9	1,327	0.67	13,929	7.0
36	29,213	14.6	14,866	7.4	746	25.5	3,372	103.5	17,960	8.9	1,410	0.70	14,347	7.1
37	31,129	15.4	15,080	7.4	695	22.3	3,468	100.2	19,459	9.6	1,437	0.71	16,049	7.9
38	32,108	15.7	14,555	7.1	638	19.9	3,399	95.7	19,931	9.7	1,379	0.67	17,553	8.6
39	34,258	16.5	14,613	7.1	612	17.9	3,395	90.2	20,941	10.1	1,396	0.67	19,654	9.5
40	36,703	17.5	15,109	7.2	587	16.0	3,284	82.1	20,310	9.7	1,520	0.72	21,594	10.3
41	27,755	13.1	14,732	6.9	475	17.1	2,858	93.4	20,513	9.7	1,587	0.75	13,023	6.1
42	39,254	18.6	14,813	7.0	573	14.6	2,902	68.8	21,160	10.0	1,718	0.81	24,441	11.6
43	39,240	18.3	14,868	6.9	521	13.3	2,882	68.4	21,098	9.8	1,755	0.82	24,372	11.4
44	39,750	18.3	15,135	7.0	575	14.5	2,813	66.1	21,440	9.9	1,822	0.84	24,615	11.3
45	41,235	18.7	15,577	7.0	481	11.7	2,704	61.5	22,621	10.2	1,871	0.85	35,658	11.6
46	42,413	19.1	15,279	6.9	494	11.6	2,692	59.7	24,143	10.8	2,000	0.90	27,134	12.2
47	44,107	19.4	15,208	6.7	454	10.3	2,535	54.4	24,826	10.9	2,135	0.94	28,899	12.7
48	44,885	19.5	15,995	6.9	478	10.6	2,509	52.9	23,850	10.3	2,201	0.95	28,890	12.5
49	43,438	18.6	15,986	6.8	433	10.0	2,379	51.9	21,851	9.4	2,192	0.94	27,452	11.8
50	39,921	16.8	15,460	6.5	353	8.8	2,192	52.1	20,514	8.6	2,329	0.98	24,461	10.3
51	38,636	16.0	15,544	6.4	344	8.9	2,359	57.5	28,738	7.8	2,401	1.00	23,092	9.6
52	36,870	15.2	15,260	6.3	303	8.2	1,995	51.3	17,507	7.2	2,599	1.07	21,610	8.9
53	35,943	14.6	15,464	6.3	289	8.0	1,810	47.9	16,031	6.5	2,590	1.06	20,479	8.3
54	33,464	13.5	15,553	6.3	240	7.2	1,698	48.3	16,117	6.5	2,661	1.08	17,911	7.2
55	32,139	12.9	16,059	6.5	209	6.5	1,622	48.0	15,916	6.4	2,884	1.16	16,080	6.5
56	30,498	12.2	16,174	6.5	200	6.6	1,662	51.7	15,571	6.2	2,980	1.19	14,324	5.7
57	30,493	12.1	16,059	6.4	194	6.4	1,522	47.5	15,794	6.3	3,134	1.25	14,434	5.7
58	30,627	12.1	16,214	6.4	193	6.3	1,435	44.8	15,776	6.2	3,382	1.34	14,413	5.7
59	30,390	12.0	16,637	6.6	181	6.0	1,325	41.8	15,370	6.1	3,529	1.39	13,753	5.4
60	28,479	11.1	16,942	6.6	143	5.0	1,360	45.6	14,932	5.8	3,248	1.27	11,537	4.5
61	28,358	11.1	16,864	6.6	148	5.2	1,282	43.3	14,839	5.8	3,241	1.27	11,494	4.5
62	26,603	10.4	16,912	6.6	121	4.5	1,252	44.9	14,025	5.5	3,179	1.24	9,691	3.8
63	26,192	10.2	17,608	6.9	135	5.2	1,093	40.1	14,076	5.5	3,071	1.20	8,584	3.4
平成元年	24,855	9.7	17,327	6.8	99	4.0	1,015	39.2	14,026	5.5	3,021	1.18	7,528	2.9
2	24,209	9.5	18,031	7.1	118	4.9	1,039	41.2	14,337	5.6	3,050	1.19	6,178	2.4
3	23,487	9.2	18,331	7.2	111	4.7	947	38.8	15,018	5.9	3,346	1.31	5,156	2.0
4	23,838	9.3	18,822	7.3	129	5.4	919	37.1	15,101	5.9	3,640	1.42	5,016	2.0
5	23,082	9.0	19,202	7.5	125	5.4	826	34.5	15,647	6.1	3,738	1.46	3,880	1.5
6	24,245	9.5	18,821	7.4	122	5.0	838	33.4	15,716	6.1	3,891	1.52	5,424	2.1
7	23,219	9.0	19,321	7.5	97	4.2	777	32.4	15,887	6.2	4,047	1.57	3,898	1.5
8	24,023	9.3	19,068	7.4	95	4.0	748	30.2	16,153	6.2	4,115	1.59	4,955	1.9
9	23,595	9.1	19,239	7.4	91	3.9	701	28.9	15,869	6.1	4,384	1.69	4,356	1.7
10	24,312	9.4	19,868	7.7	79	3.2	736	29.4	16,273	6.3	4,732	1.83	4,444	1.7
11	23,831	9.2	20,690	8.0	95	4.0	699	28.5	15,682	6.1	5,089	1.96	3,141	1.2
12	23,997	9.2	20,233	7.8	78	3.3	694	28.1	15,781	6.1	5,403	2.08	3,763	1.4
13	23,364	9.0	20,027	7.7	60	2.6	698	29.0	15,775	6.1	5,903	2.27	3,336	1.3
14	22,859	8.8	20,320	7.8	68	3.0	702	29.8	14,899	5.7	5,922	2.28	2,539	1.2
15	22,371	8.6	20,669	8.0	67	3.0	664	28.8	14,478	5.6	5,612	2.16	1,702	0.7
16	22,066	8.5	21,126	8.1	63	2.9	721	31.6	14,127	5.4	5,408	2.08	940	0.4
17	21,560	8.3	22,134	8.5	54	2.5	600	27.1	14,030	5.4	5,116	1.97	△ 574	△ 0.2
18	22,100	8.5	22,419	8.6	48	2.2	559	24.7	14,477	5.6	5,091	1.96	△ 319	△ 0.1
19	21,597	8.3	22,619	8.7	51	2.4	521	23.6	13,978	5.4	4,962	1.92	△ 1,022	△ 0.4
20	21,842	8.4	23,015	8.9	54	2.5	507	22.7	14,239	5.5	4,877	1.89	△ 1,173	△ 0.5
21	21,058	8.2	23,191	9.0	44	2.1	432	20.1	13,640	5.3	5,054	1.96	△ 2,133	△ 0.8
22	21,234	8.2	23,714	9.1	52	2.4	482	22.2	13,664	5.3	4,964	1.91	△ 2,480	△ 1.0
23	20,707	8.0	24,733	9.5	40	1.9	476	22.5	12,900	5.0	4,713	1.82	△ 4,026	△ 1.6
24	20,111	7.8	25,416	9.8	40	2.0	464	22.6	13,189	5.1	4,646	1.80	△ 5,305	△ 2.1
25	20,106	7.8	25,332	9.8	52	2.6	440	21.4	12,746	4.9	4,581	1.78	△ 5,226	△ 2.0
26	19,583	7.6	25,507	9.9	35	1.8	447	22.3	12,671	4.9	4,462	1.74	△ 5,924	△ 2.3
27	19,662	7.7	25,495	9.9	50	2.5	427	21.3	12,458	4.9	4,434	1.73	△ 5,833	△ 2.3
28	19,327	7.6	25,850	10.1	41	2.1	401	20.3	12,143	4.7	4,222	1.65	△ 6,523	△ 2.5
29	18,521	7.3	26,429	10.4	27	1.5	355	18.8	11,875	4.7	4,105	1.61	△ 7,908	△ 3.1

注 平成29年は概数である。